

令和4年度 第1回江別市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録（要点筆記）

日 時：令和4年8月3日（水）午後4時から5時10分まで

場 所：江別市民会館2階21号室

出席委員：田口智子座長、龍田昌樹座長代理、粕谷堅一郎委員、伊藤留美子委員
布施望委員、福沢康弘委員、田邊禎明委員、亀山和美委員
大川尚委員、荒木太郎委員（計10名）

オブザーバー：阿部真理石狩振興局地域創生部長

欠席者：腰原久郎委員、小西祐哉委員

事務局：川上企画政策部長、伊藤次長、水口政策推進課参事、北島主査、眞鍋主査

傍聴者：なし

会議概要

1 開会

2 議事（1）江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について、事務局説明

○福沢委員

大学生にとってインターンシップに行き、就業体験をする機会は非常に重要である。新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかったという事情は理解できるが、市としても積極的に機会の確保をお願いしたい。

○事務局

市としてもインターンシップは重要と考えている。新型コロナウイルス感染症の影響はあるため判断は難しいが、引き続き、短期間で市の仕事内容を知ってもらう取組など、様々な手法を通じて、学生にとって有意義なものになるよう努めていきたい。

○荒木委員

先日、全国放送のテレビ番組で江別市が取り上げられていた。テレビの力は大きいと思うし、費用対効果という面でも優れているので、積極的に市の取組を売り込んでいただきたい。

○事務局

マスメディアの影響が大きいというのは、市としても承知している。先日、関係人口創出に係る事業がテレビ番組で取り上げられたが、江別市の取組を市内外の方に知っていただき、市に来ていただいたり、関心をもっていただく取組を今後も続けていきたい。

○田口座長

4点お伺いする。1点目は、江別市におけるインターンシップについて、コロナ禍において受入れを行う要件があれば教えていただきたい。2点目は、海外展開促進事業について、輸出額が令和2年度比で大きく増えている理由を教えていただきたい。3点目は、総合戦略の基本目標③「子育て環境が充実していると思う保護者の割合」について、新型コロナウイルス感染症の影響があっても関わらず一定の割合を保っていると評価することも出来ると思うが、このことについて、市としては、どのように考えているかお伺いしたい。最後に、基本目標④「暮らしやすいと思う市民割合」について、3点目と同様の視点になるが、今年

初めの災害級の大雪を経験した上でのこの割合を、どのように考えているかお伺いしたい。

○事務局

1点目については、明確な要件を定めることは難しいため、担当部局において、その時々
の状況を見ながら判断している。

2点目については、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく落ち込んで
いたが、令和3年度においては、引き続き影響はあったものの、少しずつ回復基調にあるた
め、輸出額が増えていると聞いている。

3点目については、市としては、様々な外的要因があったとしても目標値を達成できてい
ない状況を良いとは受け止められない。引き続き、江別市は、子育て環境が良いと感じても
らえるような取組を実施してまいりたい。

4点目については、3点目と同様に目標値が達成されていない以上、前向きな評価は難し
い。大雪の関係では、市民の皆様に非常に多くのご不便をおかけしたと承知しているが、現
在、庁内全体で議論を進め、対策を検討している。この目標値の裏には、様々な要因がある
と思うが、引き続き、「暮らしやすいと思う市民割合」が高まるよう努めてまいりたい。

議事（2）令和2年度江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業（地方創生推進交付金及
び拠点整備交付金）の実績報告について、事務局説明

○布施委員

江別食の海外展開促進事業の海外フェアの参加企業数は、令和3年度の事業内容を踏まえ
て令和4年度の企業は増えそうか。

○事務局

令和3年度は、これまでに比べて多くの企業に参加いただいた。令和4年度は実施前なの
で参加企業は決定していないが、令和3年度と同程度の企業数を目標として調整していると
聞いている。

○龍田座長代理

新型コロナウイルス感染症の影響は、令和2年から続いており、様々な場面で影響がある
ことは承知している。しかしながら、既に一定の期間が経過していることを考えると、それ
によって事業が実施できなかったということではなく、新しい手法を検討し、実施していく
必要性があると感じるが、そういった検討がなされているかお伺いする。

○事務局

各事業を所管する担当部局においては、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、柔
軟な実施手法を検討している。今後も推移を見ながら、柔軟な手法を検討し続けられるよう、
周知してまいりたい。

3 その他（1）江別市まち・ひと・しごと創生有識者会議の在り方（座長案）について、
事務局説明

座長案のとおり、市民公募枠を設けるための見直しを行うとともに、そのために必要な諸
事項について、現在の任期中に検討を重ねていくことを確認した。

その他（２）江別市における少子化対策に向けた取組について、事務局説明

○布施委員

少子化対策の関連事業として、６事業掲載されているが、今後、予算の査定などで減る可能性はあるのか。

○事務局

資料に記載のある事業は、既に令和４年度に実施する事業として決定したものである。

○伊藤委員

働きやすい環境づくりに取り組む市内企業の紹介は非常に重要である。産休と育休を取れる企業はまだ少ないと思うので、働きやすい環境づくりを進めていくことを希望する。

○事務局

子育て応援企業紹介事業は、求職活動を行う方に対して江別市内で子育てを応援している企業や、様々な配慮を行っている企業があることを伝えるための事業である。これから、パンフレット等が出来上がるが、求職者が働きやすいと思える企業を選択できるようにするとともに、企業側にとっても他の企業を参考に、職場環境を改善する機会を創出する効果を期待している。

○田口座長

少子化対策の検討は、どのような経緯で、また、どのようなメンバーで行ってきたのかお伺いする。

また、今回、新規事業もあると思うが、市役所だけで実施するのは難しい面もあると思われるため、産学官の連携も進めていくことを期待しているが、現時点での考えをお聞きしたい。

○事務局

１点目の庁内連携会議の経緯等については、令和２年度に内閣官房が行う少子化対策のモデル事業に江別市が参加したところから始まる。その際は、事業を考案するのではなく、少子化対策に向けた取組を行う際の江別市の強みや弱みをまとめたところで終わったが、その後、具体的な事業化を進めることとなり、令和３年度に更なる検討を進め、事業を考案するまでに至った。

また、参加職員については公募を基本としたが、関連する部署には個別に声かけを行い、計３６名が参加した。

２点目について、市としては、既存事業の廃止や新規事業の立案は、プロジェクトチームに限らず全庁的に全ての職員が人口減少対策の意識を持って、取り組む必要があると考えている。そのため、市長にも報告を行い、全職員向けの掲示板に掲載して今後の取組について周知した。一方、事業を進めるに当たっては、市だけでは難しい場面もあると思われるため、産学官連携のもとで少子化対策の取組を行うことが理想であると考えている。

○荒木委員

最近、本州は桁違いの暑さになっている。そうした中、天気予報を見ると北海道の気温の低さを魅力的に感じている人が多くなっている。こうした状況は、大きなチャンスだと思うので、暑い地域に住んでいる方の背中を少し押すような施策があると、一気に移住者が増えるのではないかと感じる。

また、北海道林木育種場旧庁舎に株式会社珈房サッポロ珈琲館の本社を移転させたことは、素晴らしいことだと思う。札幌市に近いという立地上の優位性と12万人都市ということが大きかったと思う。今後も企業誘致を積極的に取り組んでいただきたい。

○事務局

江別市は、地形や気候が恵まれていることは強みであると考えており、こうした強みを全国や全道に発信していくことは重要であると感じている。

また、現在、第7次江別市総合計画を策定するに当たって、様々な方から江別市の強みや弱みを聞いた中では、札幌市に近いということが強みとして多く挙げられている。江別市の強みをしっかりと情報発信する取組の必要性を感じている。

○龍田座長代理

少子化対策は大変難しい課題だと思っている。全体の事業計画の一覧を見ると、子育てに主軸が置かれており、子どもを産むのを躊躇している人を対象としているように感じる。一方で、出会いの機会の創出も少子化を改善するために考えなくてはならない。また、子育てを見守る人の気持ちの育成も必要だと思う。ハード面の良さだけでなく、人の心に訴えかける事業も行ってほしい。素晴らしい取組だと思うが、もう一步踏み込んで考えていただけると良いと感じる。

○事務局

少子化対策には、多角的な面からの取組が必要なことは承知している。少子化対策庁内連携会議は、産みたい人が産めるまちづくりをしたいというところから始まり、二つの部会に分かれて事業を進めてきた。子育てに対する理解が少し低い方々のフォローもしていかなければならないが、昨年行ったアンケート調査では子育て世帯への取組が必要だという方は高齢の方も多かった。江別市は、子育て応援のまちと基本理念で掲げているので、江別市は子育てを応援しているまちだと知っていただける取組だと理解している。

出会いの機会の創出に関しては、以前、江別市でも取り組んでいたが、札幌市に流出してしまうという課題があったため、再度、事業を実施するとすれば、広域的な取組が必要になると考えている。

4 閉会